

7. 景観

(1) 眺望景観の変化

① 主要な眺望点からの景観

1) 調査地点

調査地点は、図 3-17 に示す主要眺望点 5 地点とした。

2) 調査日

調査日は、表 3-102 に示すとおりであり、施設竣工後に 2 回実施した。

表 3-102 調査日

調査項目	調査日	
	夏季	冬季
主要な眺望点からの景観	令和 6 年 8 月 8 日、9 日	令和 7 年 2 月 19 日

3) 調査方法

調査方法は、表 3-103 に示すとおりとした。

表 3-103 調査方法

調査項目	調査方法
主要な眺望点からの景観	写真撮影による方法

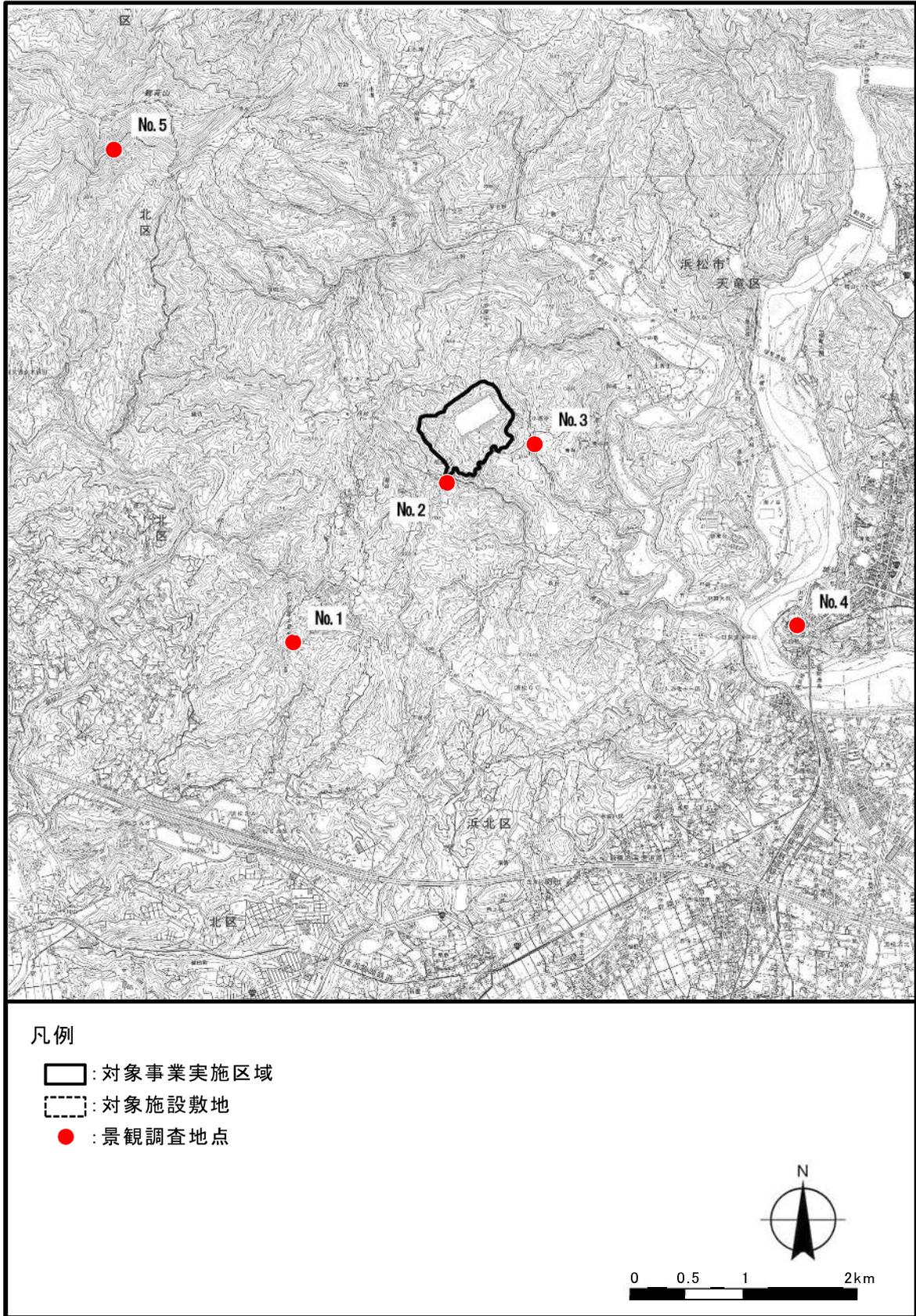


図 3-17 調査地点

4) 調査結果及び予測結果との比較

ア) 調査結果

調査結果は、表 3-104 に示すとおりであり、各調査地点の主要な眺望景観は施設竣工後において、ほとんど変化はなかった。

表 3-104(1) 主要な眺望景観の状況

No.1 太平洋富士見平 (事業地からの距離：約 2,300m)

- ・対象事業実施区域の南西側の太平洋富士見平に位置する眺望点である。
- ・この地点は、対象事業実施区域を南西側から中景として望むことができる。
- ・対象施設をわずかに視認することができたが、眺望の変化は小さい。



撮影日：令和 6 年 8 月 8 日 (夏季)



撮影日：令和 7 年 2 月 19 日 (冬季)

表 3-104(2) 主要な眺望景観の状況

No.2 周辺集落（紙板地区）（事業地からの距離：約 460m）

- ・対象事業実施区域の南西に位置する周辺集落（紙板地区）を代表する眺望地点である。
- ・この地点は、対象事業実施区域を南西側から近景として望むことができる。
- ・対象施設は手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。



撮影日：令和6年8月8日（夏季）



撮影日：令和7年2月19日（冬季）

表 3-104(3) 主要な眺望景観の状況

No.3 周辺集落（小堀谷地区）（事業地からの距離：約 500m）

- ・対象事業実施区域の南東に位置する周辺集落（小堀谷地区）を代表する眺望地点である。
- ・この地点は、青谷鍾乳洞の駐車スペースに位置し、対象事業実施区域を南東側から近景として望むことができる。
- ・対象施設は手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できなかつたため、眺望の変化はない。



撮影日：令和6年8月8日（夏季）



撮影日：令和7年2月19日（冬季）

表 3-104(4) 主要な眺望景観の状況

No.4 鳥羽山公園（事業地からの距離：約 3,200m）

- ・対象事業実施区域の南東側の鳥羽山公園に位置する眺望点である。
- ・この地点は、対象事業実施区域を南東側から中景として望むことができる。
- ・対象施設をわずかに視認することができたが、眺望の変化は小さい。



撮影日：令和6年8月8日（夏季）



撮影日：令和7年2月19日（冬季）

表 3-104(5) 主要な眺望景観の状況

No.5 観音山登山道 (事業地からの距離: 約 3,800m)

- ・対象事業実施区域の北西側の観音山登山道に位置する眺望点である。
- ・この地点は、対象事業実施区域を北西側から中景として望むことができる。
- ・対象施設は手前の尾根(樹林地)に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。



撮影日: 令和6年8月9日(夏季)



撮影日: 令和7年2月19日(冬季)

イ) 予測結果との比較

環境影響評価書における予測結果と事後調査結果について比較を行った。

比較結果は、表 3-105 に示すとおりである。

表 3-105 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
眺望景観 の変化	<p>施設の存在に伴う眺望景観の変化の事後調査結果は以下のとおりである。</p> <p>【No.1 太平洋富士見平】 対象施設をわずかに視認することができたが、眺望の変化は小さい。</p> <p>【No.2 周辺集落(紙板地区)】 対象施設は手前の尾根(樹林地)に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。</p> <p>【No.3 周辺集落(小堀谷地区)】 対象施設は手前の尾根(樹林地)に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。</p> <p>【No.4 鳥羽山公園】 対象施設をわずかに視認することができたが、眺望の変化は小さい。</p> <p>【No.5 観音山登山道】 対象施設は手前の尾根(樹林地)に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。</p>	<p>施設の存在に伴う眺望景観の変化の予測結果は以下のとおりである。</p> <p>【No.1 太平洋富士見平】 供用時には、計画施設の煙突の一部が視認できる。しかし、視認できる計画施設は小さいことから、施設の存在による圧迫感やスカイラインの切断は生じないため、眺望の変化は小さい。</p> <p>【No.2 周辺集落(紙板地区)】 計画施設は、手前の尾根(樹林地)に遮られて視認できないことから、眺望は変化しない。</p> <p>【No.3 周辺集落(小堀谷地区)】 計画施設は、手前の尾根(樹林地)に遮られて視認できないことから、眺望は変化しない。</p> <p>【No.4 鳥羽山公園】 計画施設の煙突と建屋の上部が一部視認できる。しかし、視認できる計画施設は小さいことから、施設の存在による圧迫感やスカイラインの切断は生じないため、眺望の変化は小さい。</p> <p>【No.5 観音山登山道】 計画施設は、手前の尾根(樹林地)に遮られて視認できないことから、眺望は変化しない。</p>

8. 人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 施設関連車両の走行に伴う人と自然との触れ合いの活動の場への影響

① 人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況

1) 調査地点

調査地点は、図 3-18 に示す森林公園内の 1 カ所とした。

2) 調査日

調査日は、表 3-106 に示すとおりであり、稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時に 1 回実施した。

表 3-106 調査日

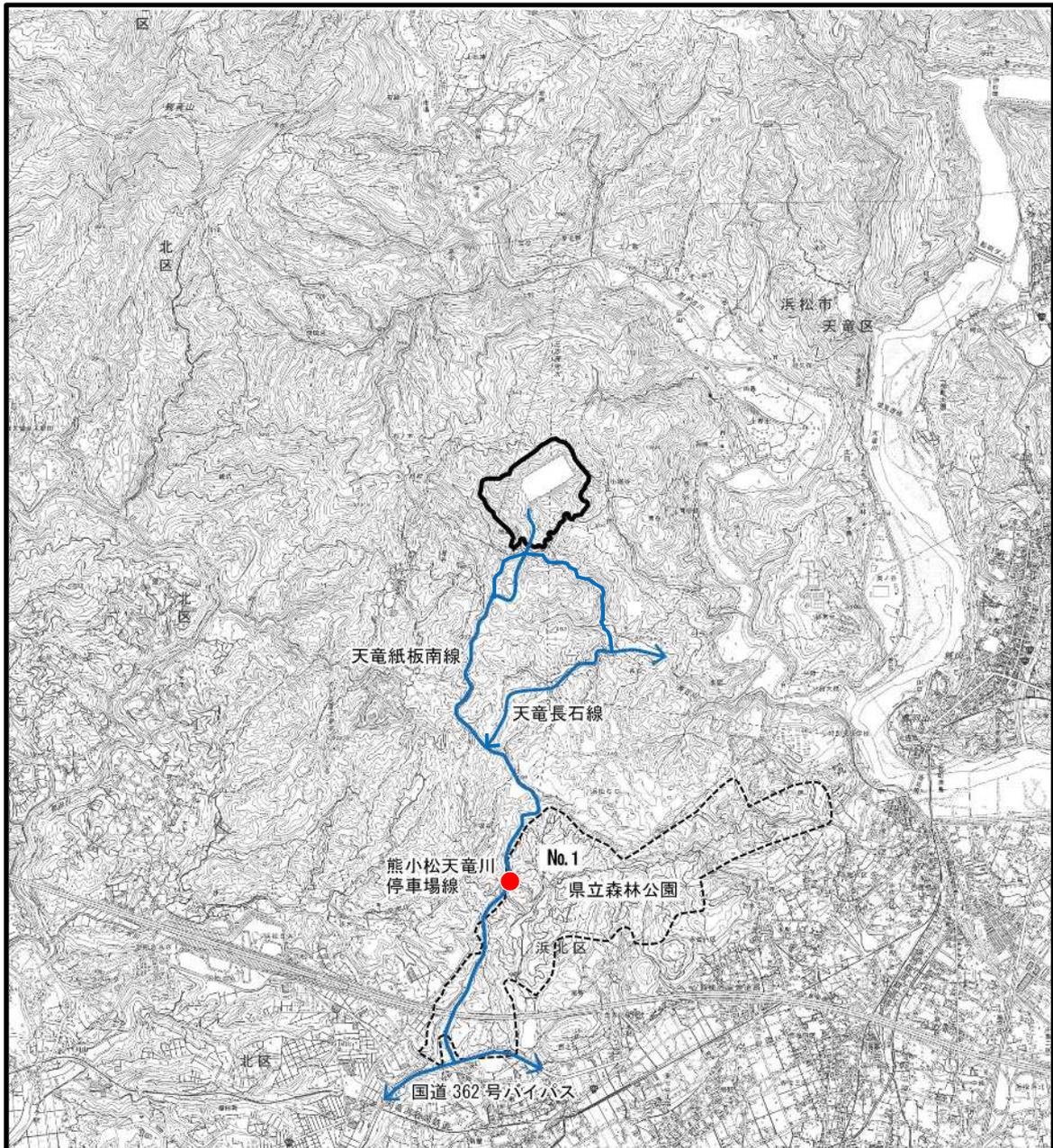
調査項目	調査日
人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況	令和 6 年 10 月 15 日 (火) 7:00~18:00

3) 調査方法

調査方法は、表 3-107 に示すとおりである。

表 3-107 調査方法

調査項目	調査方法
人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況	来場者へのヒアリング等による方法



凡例

- : 対象事業実施区域
- : 対象施設敷地
- : 主要な人と自然との触れ合いの活動の場調査地点
(県立森林公園駐車場)
- ← : 施設関連車両走行ルート



図 3-18 調査地点

4) 調査結果及び予測結果との比較

ア) 調査結果

アンケートにより、利用者の属性や利用目的、アクセスルートについて確認を行った。

利用者の属性を表 3-108 及び表 3-109、利用目的を表 3-110、各ルートの車両アクセス数を表 3-111、渋滞の有無を表 3-112 に示す。

アンケート調査の結果、利用者の全体が熊小松線を使用して森林公園にアクセスしていることやアクセス経路に渋滞がないことが確認された。

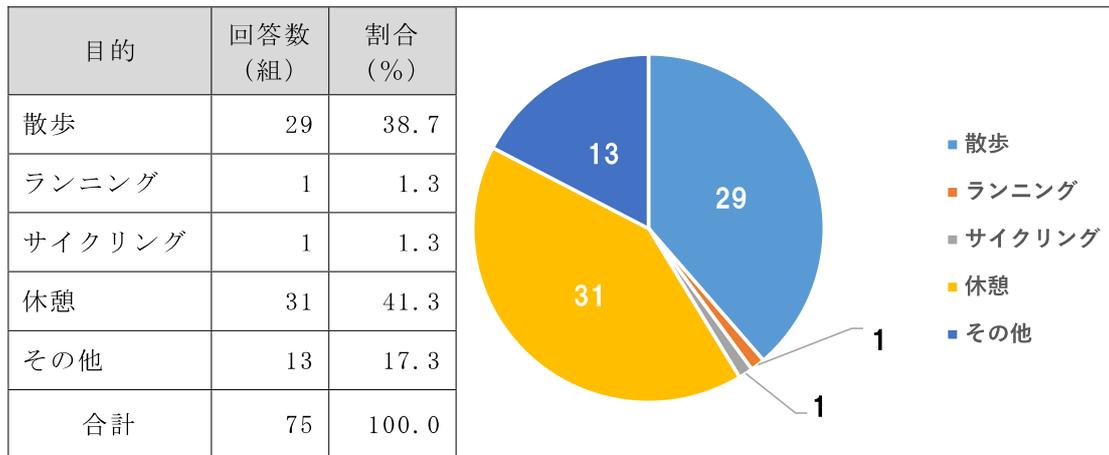
表 3-108 利用者の属性（組）

時間帯 組数	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	計
1人	3	4	5	6	4	8	1	7	8	3	2	—	51
2人組	1	4	4	1	2	3	1	3	2	1	—	—	22
3人組	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1
4人組	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
5人組	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
6人組	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
それ以上	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
合計	4	8	10	7	6	11	2	10	11	4	2	0	75

表 3-109 利用者の属性（人）

時間帯	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	計
男(人)	4	6	17	6	5	14	3	12	13	2	2	—	84
女(人)	1	6	21	2	3	—	—	1	2	3	—	—	39
合計	5	12	38	8	8	14	3	13	15	5	2	—	123

表 3-110 利用目的



注) 割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100.0にならない。

表 3-111 各ルート of 車両アクセス数

ルート名	回答組数
天竜紙板南線	0
天竜長石線	4
熊小松天竜川停車場線	51
国道362バイパス	30
不明	24

表 3-112 渋滞の有無

渋滞の有無	回答組数
有	0
無	51
不明	24
合計	75

注1) アンケート調査を実施できなかった、回答が得られなかったものを不明とした。

注2) 調査地点No.1熊小松天竜川停車場線に至るまでに利用した複数経路を含む。

イ) 予測結果との比較

環境影響評価書における予測結果と事後調査結果について比較を行った。

本調査地点が位置する県道熊小松天竜川停車場線は、公園利用者のアクセスルート及び施設関連車両の走行ルートとして利用されている。

地域交通調査で得られた断面交通量及び施設関連車両による交通量の混雑度について予測結果と比較を行った。

地域交通調査で得られた断面交通量の結果を表 3-113、混雑度の結果を表 3-114 に示す。

比較結果は、表 3-115 に示すとおりである。

表 3-113 断面交通量調査結果

調査地点	道路名	11 時間交通量 (7 時～18 時)					大型車混入率 (%)	ピーク時間交通量	
		施設関連車両 (大型) (台)	大型 (台)	小型 (台)	二輪 (台)	計 (台)		時間帯 (時)	交通量 (台)
No.1	県道熊小松天竜川停車場線	351	218	1,034	17	1,620	35.5	10～11	203

表 3-114 施設関連車両による交通量の混雑度

時間帯	No.1		
	(a)	(b)	(b-a)
	予測結果	事後調査結果	増加分
7:00 ～ 8:00	0.039	0.042	0.003
8:00 ～ 9:00	0.044	0.033	-0.011
9:00 ～ 10:00	0.031	0.032	0.001
10:00 ～ 11:00	0.058	0.077	0.019
11:00 ～ 12:00	0.050	0.055	0.005
12:00 ～ 13:00	0.036	0.045	0.009
13:00 ～ 14:00	0.036	0.049	0.013
14:00 ～ 15:00	0.050	0.059	0.009
15:00 ～ 16:00	0.040	0.055	0.015
16:00 ～ 17:00	0.033	0.035	0.002
17:00 ～ 18:00	0.041	0.031	-0.010

表 3-115 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況	<p>県道熊小松天竜川停車場線ルートは、全時間帯で混雑度が1.0未満となっており、施設関連車両の走行による地域交通への影響及び到達時間の変化は、ほとんど生じていないと考えられる。</p> <p>アンケート調査の結果からも、全時間帯において渋滞は確認されなかった。</p>	<p>来場ルートである県道熊小松天竜川停車場線において、施設関連車両の影響する割合（混雑度：最大0.58）が飽和（＝1.0）に達しないため、到達時間の変化はないものと考えられる。</p>

9. 地球環境

(1) 廃棄物処理への影響

① 廃棄物処理量の発生量及び種類

1) 調査対象期間

調査対象期間は、表 3-116 に示すとおりであり、稼働後 1 年間の定常稼働時の記録を集計した。

表 3-116 調査対象期間

調査項目	調査対象期間
廃棄物処理量の発生量及び種類	令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

2) 調査方法

調査方法は、表 3-117 に示すとおりとした。

表 3-117 調査方法

調査項目	調査方法
廃棄物処理量の発生量及び種類	運転記録、稼働記録の把握、集計による方法

3) 調査結果及び予測結果との比較

ア) 調査結果

調査結果は表 3-118 に示すとおりである。

表 3-118 施設供用時における一般廃棄物・産業廃棄物量等の調査結果

項目		発生量	排出量	再資源化量	焼却処分量	最終処分量
一般廃棄物	飛灰処理物 (t/年)	3,338	3,338	0	0	3,338
	処理不適物 (t/年)	32	32	0	0	32
	不燃残渣 (t/年)	3,809	3,809	0	3,809	0
産業廃棄物	汚泥 (t/年)	0	0	0	0	0

イ) 予測結果との比較

環境影響評価書における予測結果と事後調査結果について比較を行った。

環境影響評価書における予測結果は表 3-119 に、予測結果との比較は表 3-120 に示すとおりである。

表 3-119 環境影響評価書における予測結果

項目		発生量	排出量	再資源化量	焼却処分量	最終処分量
一般廃棄物	飛灰処理物 (t/年)	9,500	9,500	0	0	9,500
	処理不適物 (t/年)	4,265	4,265	4,265	0	(4,265)
	不燃残渣 (t/年)	3,832	3,832	3,832	0	(3,832)
産業廃棄物	汚泥 (t/年)	230	230	0	230	0

注) 最終処分量のうち () で示した量は、再資源化が困難であった場合での最大量を示す。

表 3-120 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
<p>廃棄物処理量の発生量及び種類</p>	<p>施設供用時における廃棄物量等の調査結果は以下のとおり、予測結果よりも少ない結果であり、評価書における環境保全目標の「一般廃棄物・産業廃棄物の排出量を出来る限り抑制すること」を満足するものと考えられる。</p> <p>なお、予測結果と事後調査結果との差が大きい理由については、プラント設備技術の向上に加え、ごみ量減少によるものである。</p> <p>【一般廃棄物の排出量】 飛灰処理物 (t/年) : 3,338 処理不適物 (t/年) : 32 不燃残渣 (t/年) : 3,809</p> <p>【産業廃棄物の排出量】 汚泥 (t/年) : 0</p>	<p>施設供用時における廃棄物量等の予測結果は以下のとおりと予測される。</p> <p>【一般廃棄物の排出量】 飛灰処理物 (t/年) 9,500 処理不適物 (t/年) 4,265 不燃残渣 (t/年) 3,832</p> <p>【産業廃棄物の排出量】 汚泥 (t/年) 230</p>

(2) 温室効果ガスの発生量

① 電気及び燃料の使用量

1) 調査対象期間

調査対象期間は、表 3-121 に示すとおりであり、稼働後 1 年間の定常稼働時の記録を集計した。

表 3-121 調査対象期間

調査項目	調査対象期間
電気及び燃料の使用量	令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

2) 調査方法

調査方法は、表 3-122 に示すとおりとした。

表 3-122 調査方法

調査項目	調査方法
電気及び燃料の使用量	運転記録、稼働記録の把握、集計による方法

3) 調査結果及び予測結果との比較

ア) 調査結果

調査結果は表 3-123 に示すとおりである。

表 3-123 施設供用時における温室効果ガス排出量の調査結果

発生要因	CO ₂	CH ₄	N ₂ O
連続燃焼式焼却施設	—	0.6488 tCH ₄ /年 (14 tCO ₂ /年)	1.1283 tN ₂ O/年 (350 tCO ₂ /年)
燃料の使用	13,079 tCO ₂ /年	—	—
廃棄物の焼却	34,667 tCO ₂ /年	—	—
電気の消費量	10,003 tCO ₂ /年	—	—
電気の発電量	-25,438 tCO ₂ /年	—	—
合計排出量 (CO ₂ 換算排出量)	32,676 tCO ₂ /年		

注) CH₄のCO₂への換算は係数21を乗じ、N₂OのCO₂への換算は係数310を乗じて求めた。

イ) 予測結果との比較

環境影響評価書における予測結果と事後調査結果について比較を行った。

環境影響評価書における予測結果は表 3-124 に、予測結果との比較は表 3-125 に示すとおりである。

表 3-124 環境影響評価書における予測結果

発生要因	CO ₂	CH ₄	N ₂ O
連続燃焼式焼却施設	—	0.1016 tCH ₄ /年 (2 tCO ₂ /年)	6.0638 tN ₂ O/年 (1880 tCO ₂ /年)
燃料の使用	30,161 tCO ₂ /年	—	—
廃棄物の焼却	70,665 tCO ₂ /年	—	—
電気の消費量	13,472 tCO ₂ /年	—	—
電気の発電量	-25,003 tCO ₂ /年	—	—
合計排出量 (CO ₂ 換算排出量)	91,117 tCO ₂ /年		

注) CH₄のCO₂への換算は係数21を乗じ、N₂OのCO₂への換算は係数310を乗じて求めた。

表 3-125 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
電気及び燃料の 使用量	<p>施設供用時における排出ガスの排出及び機械等の稼働に伴う温室効果ガス排出量の調査結果は以下のとおり、予測結果よりも少ない結果であり、評価書における環境保全目標の「温室効果ガスの排出量が可能な限り抑制されていること」を満足するものと考えられる。</p> <p>なお、予測結果と事後調査結果との差が大きい理由については、プラント設備技術の向上に加え、ごみ量減少によるものである。</p> <p>【温室効果ガス (CO₂) の排出量】 総排出量 : 32,676 tCO₂/年</p>	<p>施設供用時における排出ガスの排出及び機械等の稼働に伴う温室効果ガス排出量の予測結果は以下のとおりと予測される。</p> <p>【温室効果ガス (CO₂) の排出量】 総排出量 : 91,177 tCO₂/年</p>

10. 光害

(1) 照度の変化

① 事業地周辺での照度の変化

1) 調査地点

調査地点は、図 3-19 に示す対象事業実施区域周辺の 3 地点とした。

2) 調査日

調査日は、表 3-126 に示すとおりであり、施設竣工後に 2 回実施した。

表 3-126 調査日

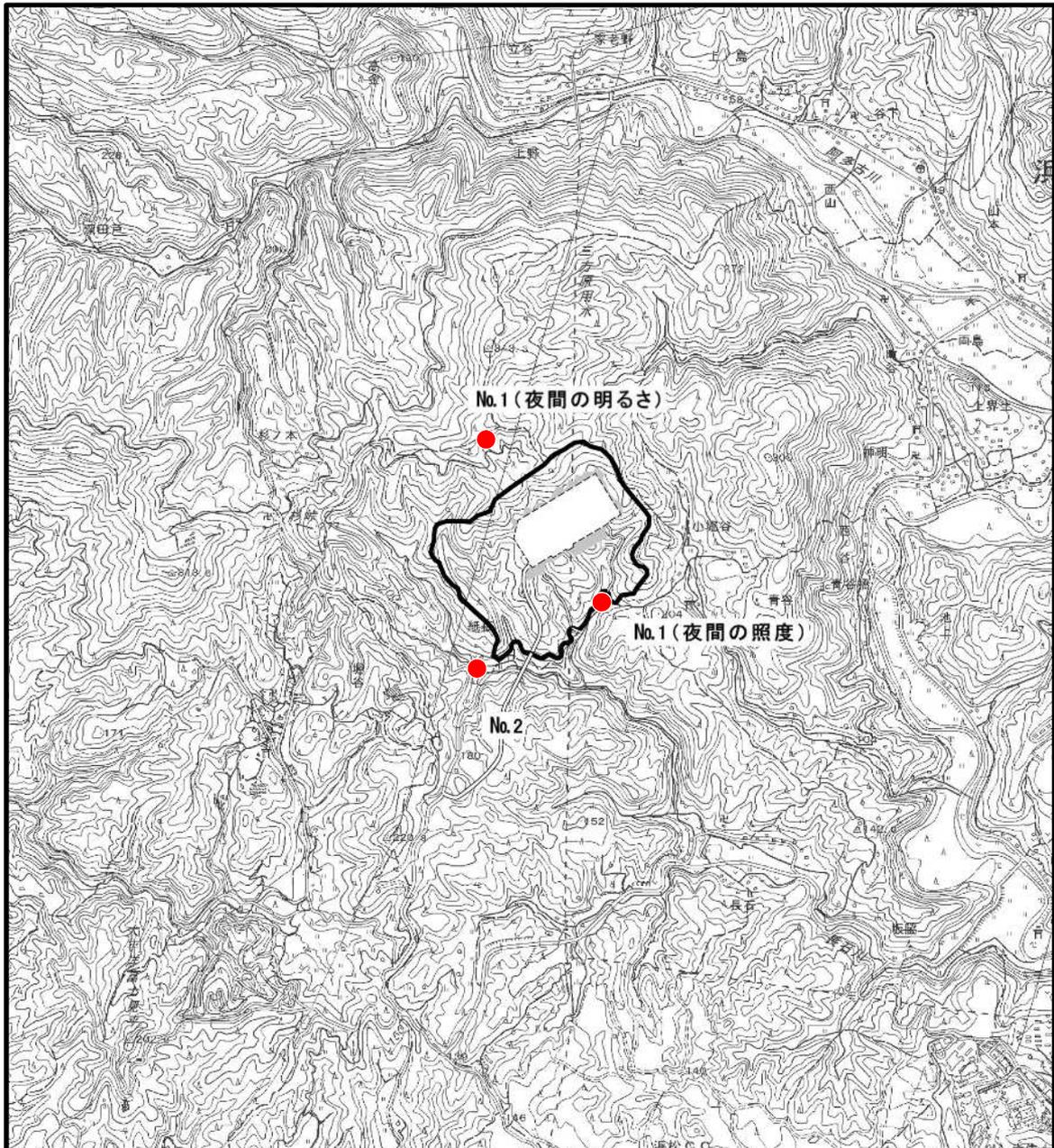
調査項目	調査日	
	満月時	新月時
事業地周辺での照度の変化	令和 6 年 7 月 21 日	令和 6 年 8 月 2 日

3) 調査方法

調査方法は、表 3-127 に示すとおりとした。

表 3-127 調査方法

調査項目	調査方法
事業地周辺での照度の変化	写真撮影及び照度調査による方法



凡例

- : 対象事業実施区域
- : 対象施設敷地
- : 光害調査地点

注) No.1(対象事業実施区域)の夜間の明るさについては、林地や谷間地形で遮蔽されていない箇所を照度の地点とは別に設定した。



0 0.25 0.5 1km

図 3-19 調査地点

4) 調査結果及び予測結果との比較

ア) 調査結果

調査結果は、表 3-128～表 3-129 に示すとおりである。

夜間において、No.1（夜間の明るさ）は市街地の明かりであり、対象施設の明かりは確認されなかった。No.1（夜間の照度）はわずかに対象施設の明かりを確認できる程度、No.2 は対象施設の明かりは確認されなかった。

なお、施設内で夜間点灯している照明には上方向への漏れ光を抑制する対策が施されていた。

表 3-128 夜間の照度

調査時期	調査地点	照度測定値 (lx)	
		満月時	新月時
夏季	No.1（夜間の明るさ）	0.11	0.03
	No.1（夜間の照度）	0.10	0.02
	No.2	0.09	0.02

表 3-129(1) 対象施設内の照明（新月時）

撮影地点	対象施設内の明るさ（新月時）	
対象施設 西側入口		<p>【調査結果】</p> <p>撮影：令和6年8月2日</p> <p>施設建屋2階以上の上部に点灯している照明はほとんど無く、主に敷地内道路の街灯が点灯していた。</p> <p>また、主な街灯には上方向への漏れ光を抑制する対策が施されていた。</p>
対象施設 東側施設内		<p>【調査結果】</p> <p>撮影：令和6年8月2日</p> <p>施設建屋2階以上の上部に点灯している照明はほとんど無く、主に敷地内道路の街灯が点灯していた。</p> <p>また、主な街灯には上方向への漏れ光を抑制する対策が施されていた。</p>

表 3-129(2) 調査地点周辺の明るさ（新月時）

調査地点	調査地点周辺の明るさ（新月時）	
No.1 （夜間の明るさ）		<p>【調査結果】 撮影：令和6年8月2日 照度：0.03 lx 調査地点からは日中において対象施設を視認できない。 主な光源は市街地の明かりであり、対象施設からの明かりは確認されなかった。</p>
No.1 （夜間の照度）		<p>【調査結果】 撮影：令和6年8月2日 照度：0.02 lx 調査地点からは日中において対象施設（建屋）を視認することができる。 主な光源は無く、対象施設からの明かりがわずかに確認された。</p>
No.2		<p>【調査結果】 撮影：令和6年8月2日 照度：0.02 lx 調査地点からは日中において対象施設を視認できない。 主な光源は無く、対象施設からの明かりは確認されなかった。</p>

イ) 予測結果との比較

環境影響評価書における予測結果と事後調査結果について比較を行った。

環境影響評価書における調査結果は表 3-130 に、予測結果との比較は表 3-131 に示すとおりである。

表 3-130 環境影響評価書における調査結果（建設前）

調査時期	調査地点	照度測定値 (lx)	
		満月時	新月時
夏季	No.1 (夜間の照度)	0.10	0.01
	No.2	0.04	0.01

表 3-131 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
事業地周辺での照度の変化	<p>夜間の照度はNo.1の満月時で0.10 lx、新月時で0.02 lx、No.2の満月時で0.09 lx、新月時で0.02 lxであり、対象施設建設前の照度と大きな変化はなかった。</p> <p>また、施設照明による漏洩防止対策を施していることから、光害の影響はほとんど無いと考えられる。</p>	<p>夜間照明として、出来る限り紫外線域の波長の少ない低圧ナトリウム灯や発光ダイオード(LED)を含む光源を使用するなど、点灯時間の十分な検討をすることにより影響の低減を図ることとする。これにより、照明による漏洩が防止されることから、光害の影響はほとんど無いと考えられる。</p>

11. 地域交通

(1) 施設関連車両の走行に伴う交通量及び交差点需要率への影響

① 交通量、渋滞長及び滞留長、信号のサイクル長

1) 調査地点

調査地点は、施設関連車両の走行ルートである図 3-20 に示す 3 地点とした。

2) 調査日

調査日は、表 3-132 に示すとおりであり、稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時に 1 回実施した。

表 3-132 調査日

調査項目	調査日
交通量、 渋滞長及び滞留長、 信号のサイクル長	令和 6 年 10 月 15 日（火）7:00～18:00

3) 調査方法

調査方法は、表 3-133 に示すとおりとした。

表 3-133 調査方法

調査項目	調査方法
交通量、 渋滞長及び滞留長、 信号のサイクル長	目視観測等による方法 (渋滞長及び滞留長、信号サイクル長はNo.1 地点のみ)

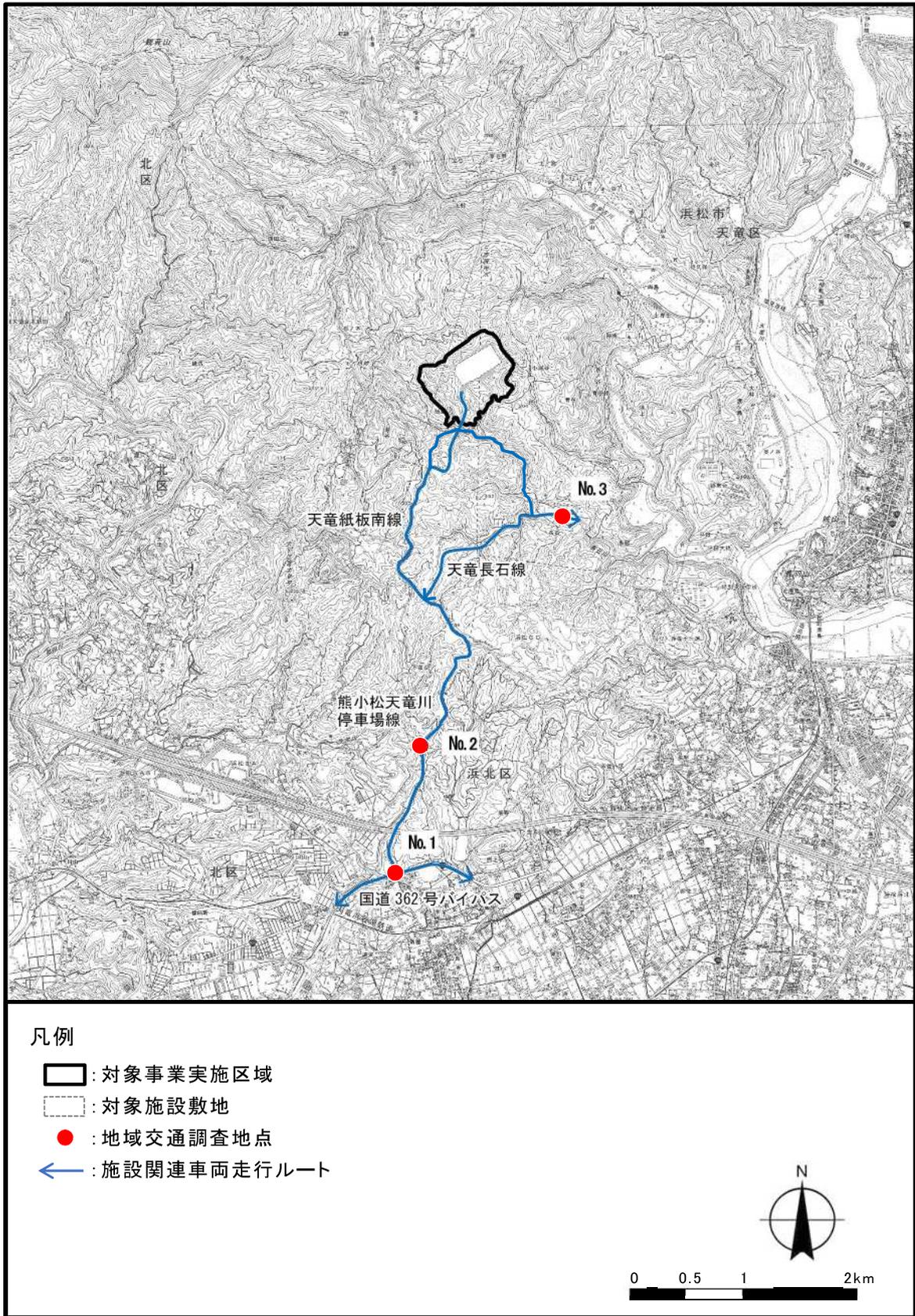


図 3-20 調査地点

4) 調査結果及び予測結果との比較

ア) 調査結果

i) 断面交通量 (No.2、No.3)

No.2、No.3 の断面交通量は、表 3-134 に示すとおりである。

表 3-134 断面交通量の調査結果

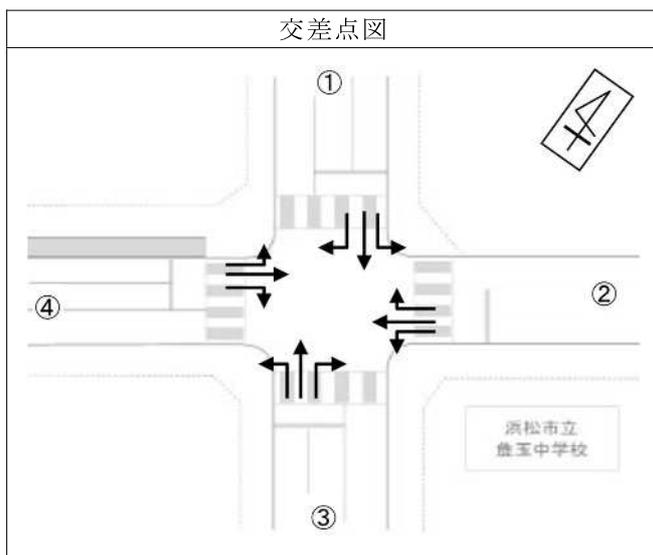
調査地点	道路名	11 時間交通量 (7 時～18 時)				大型車混入率 (%)	ピーク時間交通量	
		施設関係車両 (大型) (台)	大型 (台)	小型 (台)	計 (台)		時間帯 (時)	交通量 (台)
No.2	県道熊小松天竜川停車場線	351	218	1,034	1,603	35.5	10～11	198
No.3	市道天竜長石線	130	150	595	875	32.0	7～8	132

ii) 交差点方向別交通量 (No.1)

No.1 の交差点方向別交通量は、表 3-135 に示すとおりである。

表 3-135 交差点方向別交通量の調査結果

調査地点	道路名	断面	11 時間交通量 (7 時～18 時)				大型車混入率 (%)	ピーク時間交通量	
			施設関係車両 (大型) (台)	大型 (台)	小型 (台)	計 (台)		時間帯 (時)	交通量 (台)
No.1	国道 362 号バイパス	①	333	190	1,331	1,854	28.2	11～12	223
		②	171	1,122	5,668	6,961	18.6	7～8	1,098
		③	5	388	2,442	2,835	13.9	7～8	342
		④	201	1,532	7,531	9,264	18.7	7～8	1,424



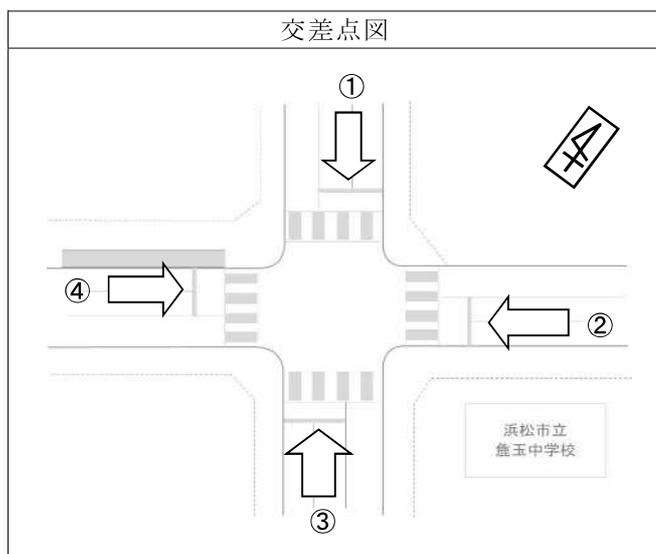
iii) 渋滞長及び滞留長 (No.1)

No.1 の渋滞長及び滞留長は、表 3-136 に示すとおりである。

表 3-136 渋滞長及び滞留長の調査結果

単位：m

時間帯	①断面		②断面		③断面		④断面	
	滞留長	渋滞長	滞留長	渋滞長	滞留長	渋滞長	滞留長	渋滞長
7:00 ~ 8:00	40	20	320	0	60	0	70	0
8:00 ~ 9:00	30	0	180	0	60	0	60	0
9:00 ~ 10:00	30	0	130	0	70	0	50	0
10:00 ~ 11:00	80	0	110	0	50	0	50	0
11:00 ~ 12:00	30	0	70	0	50	0	50	0
12:00 ~ 13:00	30	0	80	0	70	0	90	0
13:00 ~ 14:00	40	0	110	0	60	0	50	0
14:00 ~ 15:00	80	10	90	0	40	0	60	0
15:00 ~ 16:00	30	0	100	0	40	0	60	0
16:00 ~ 17:00	50	0	120	0	40	0	60	0
17:00 ~ 18:00	30	0	110	0	40	0	70	0



iv) 信号のサイクル長 (No.1)

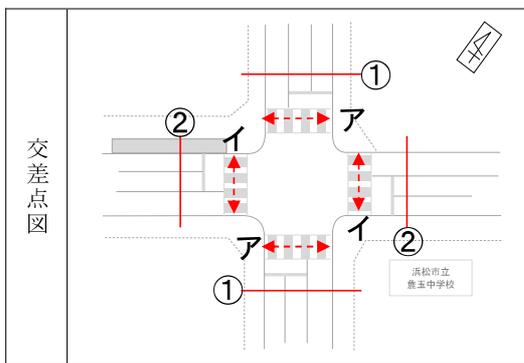
No.1 の信号のサイクル長は、表 3-137 に示すとおりである。

表 3-137 信号のサイクル長調査結果

表記：B：青信号 Y：黄信号 R：赤信号

現示 パターン	1φ		2φ			3φ		4φ		5φ			単位：秒 サイクル長
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
自動車	①	B	B	B	Y	R	R	R	R	R	R	R	R
	②	R	R	R	R	R	B	B	B	Y	右	Y	R
歩行者	ア	B	点滅	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
	イ	R	R	R	R	R	B	点滅	R	R	R	R	R

現示 パターン	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	単位：秒 サイクル長
7時台	21	5	3	3	3	50	6	3	3	8	2	3	110
8時台	21	5	3	3	3	50	6	3	3	8	2	3	110
9時台	21	5	3	3	3	41	6	3	3	7	2	3	100
10時台	21	5	3	3	3	41	6	3	3	7	2	3	100
11時台	21	5	3	3	3	41	6	3	3	7	2	3	100
12時台	21	5	3	3	3	41	6	3	3	7	2	3	100
13時台	21	5	3	3	3	41	6	3	3	7	2	3	100
14時台	21	5	3	3	3	41	6	3	3	7	2	3	100
15時台	21	5	3	3	3	41	6	3	3	7	2	3	100
16時台	21	5	3	3	3	41	6	3	3	7	2	3	100
17時台	21	5	3	3	3	50	6	3	3	8	2	3	110



パターン	1φ	2φ	3φ	4φ	5φ
		南北道自動車・歩行者信号が青	南北道自動車のみ青	東西道自動車・歩行者信号が青	東西道自動車のみ青

v) 交通量の混雑度

調査地点No.1、No.2、No.3 は、各流入部（車線）における交通容量と交通量より、道路の混み具合を示す混雑度を算出した。

施設関連車両による混雑度は、表 3-138 に示すとおり、全地点ともに飽和状態（＝1.00）に達することはなかった。

表 3-138 交通量の混雑度（No.1、No.2、No.3）

時間帯	No.1(断面②)			No.2			No.3		
	(a)	(b)	(b-a)	(a)	(b)	(b-a)	(a)	(b)	(b-a)
	予測結果	事後調査結果	増減	予測結果	事後調査結果	増減	予測結果	事後調査結果	増減
7:00 ～ 8:00	0.109	0.253	0.144	0.039	0.042	0.003	0.019	0.036	0.017
8:00 ～ 9:00	0.095	0.191	0.096	0.044	0.033	-0.011	0.022	0.028	0.006
9:00 ～ 10:00	0.085	0.154	0.069	0.031	0.032	0.001	0.020	0.021	0.001
10:00 ～ 11:00	0.100	0.148	0.048	0.058	0.077	0.019	0.027	0.025	-0.002
11:00 ～ 12:00	0.082	0.128	0.046	0.050	0.055	0.005	0.023	0.027	0.004
12:00 ～ 13:00	0.066	0.115	0.049	0.036	0.045	0.009	0.018	0.009	-0.009
13:00 ～ 14:00	0.079	0.133	0.054	0.036	0.049	0.013	0.021	0.029	0.008
14:00 ～ 15:00	0.085	0.149	0.064	0.050	0.059	0.009	0.023	0.026	0.003
15:00 ～ 16:00	0.085	0.148	0.063	0.040	0.055	0.015	0.024	0.039	0.015
16:00 ～ 17:00	0.083	0.154	0.071	0.033	0.035	0.002	0.020	0.024	0.004
17:00 ～ 18:00	0.091	0.200	0.109	0.041	0.031	-0.010	0.024	0.021	-0.003

vi) 交差点需要率

調査地点No.1 は、交差点方向別における交通容量と交通量より、交差点全体の混雑割合を示す交差点需要率を算出した。

施設関連車両による交差点需要率は、表 3-139 に示すとおり、全地点ともに飽和状態(=1.00)に達することはなかった。

表 3-139(1) 交差点需要率の変化 (No.1)

時間帯	東行車線 【直進：④→②】 【左折：④→①】			西行車線 【右折：②→①】		
	(a)	(b)	(b-a)	(a)	(b)	(b-a)
	予測結果	事後調査結果	増減	予測結果	事後調査結果	増減
7:00 ~ 8:00	0.146	0.333	0.187	0.038	0.052	0.014
8:00 ~ 9:00	0.120	0.218	0.098	0.023	0.028	0.005
9:00 ~ 10:00	0.102	0.167	0.065	0.034	0.100	0.066
10:00 ~ 11:00	0.119	0.186	0.067	0.047	0.052	0.005
11:00 ~ 12:00	0.098	0.166	0.068	0.026	0.085	0.059
12:00 ~ 13:00	0.083	0.173	0.090	0.023	0.079	0.056
13:00 ~ 14:00	0.104	0.187	0.083	0.031	0.041	0.010
14:00 ~ 15:00	0.095	0.186	0.091	0.026	0.069	0.043
15:00 ~ 16:00	0.105	0.183	0.078	0.020	0.076	0.056
16:00 ~ 17:00	0.089	0.207	0.118	0.016	0.021	0.005
17:00 ~ 18:00	0.126	0.281	0.155	0.013	0.020	0.007

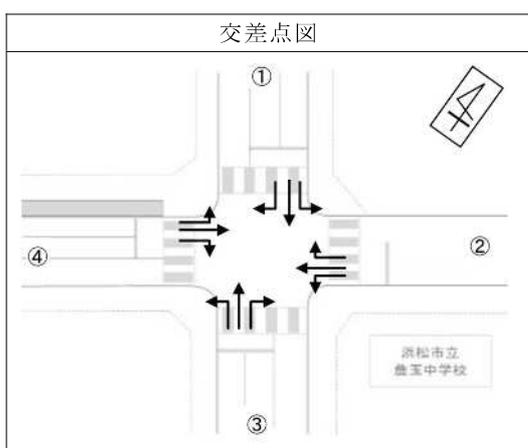
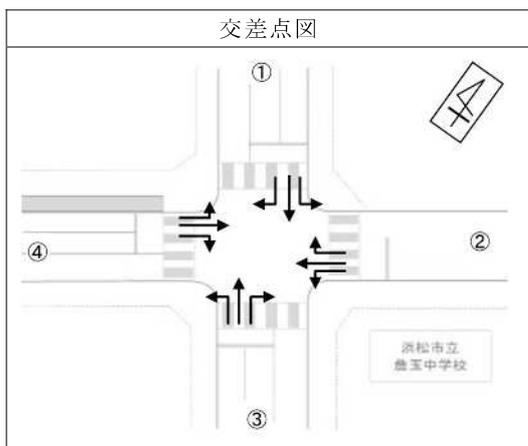


表 3-139(2) 交差点需要率の変化 (No.1)

時間帯	南行車線 【直進：①→③】 【左折：①→②】			南行車線 【右折：①→④】		
	(a)	(b)	(b-a)	(a)	(b)	(b-a)
	予測結果	事後調査結果	増減	予測結果	事後調査結果	増減
7:00 ~ 8:00	0.019	0.020	0.001	0.057	0.035	-0.022
8:00 ~ 9:00	0.017	0.022	0.005	0.040	0.028	-0.012
9:00 ~ 10:00	0.029	0.026	-0.003	0.055	0.039	-0.016
10:00 ~ 11:00	0.039	0.033	-0.006	0.048	0.066	0.018
11:00 ~ 12:00	0.034	0.048	0.014	0.029	0.064	0.035
12:00 ~ 13:00	0.026	0.046	0.020	0.039	0.031	-0.008
13:00 ~ 14:00	0.036	0.030	-0.006	0.056	0.073	0.017
14:00 ~ 15:00	0.035	0.037	0.002	0.045	0.074	0.029
15:00 ~ 16:00	0.046	0.036	-0.010	0.032	0.062	0.030
16:00 ~ 17:00	0.051	0.041	-0.010	0.078	0.043	-0.035
17:00 ~ 18:00	0.058	0.039	-0.019	0.074	0.034	-0.040



イ) 予測結果との比較

環境影響評価書における予測結果と事後調査結果について比較を行った。

比較結果は表 3-140 に示すとおりである。

表 3-140 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
交通量の混雑度	<p>交通量の混雑度は以下に示すとおりであり、飽和状態(=1.00)に達することはなかった。</p> <p>なお、No.1において混雑度が予測値よりも若干高くなった要因は、環境影響評価書以降に国道362号バイパスが整備されたことにより交通量が増加したことに起因する。</p> <p>【混雑度】 No.1 : 0.115~0.253 No.2 : 0.031~0.077 No.3 : 0.009~0.039</p>	<p>交通量の混雑度は以下に示すとおりであり、飽和状態(=1.00)に達することはないと予測される。</p> <p>【混雑度】 No.1 : 0.066~0.109 No.2 : 0.031~0.058 No.3 : 0.018~0.027</p>
交差点需要率	<p>交差点需要率は以下に示すとおりであり、飽和状態(=1.00)に達することはなかった。</p> <p>なお、No.1において需要率が予測値よりも若干高くなった要因は、環境影響評価書以降に国道362号バイパスが整備されたことにより交通量が増加したことに起因する。</p> <p>【需要率】 東行車線の直進・左折 : 0.166~0.333 西行車線の右折 : 0.020~0.100 南行車線の直進・左折 : 0.020~0.048 右折 : 0.028~0.074</p>	<p>交差点需要率は以下に示すとおりであり、飽和状態(=1.00)に達することはないと予測される。</p> <p>【需要率】 東行車線の直進・左折 : 0.083~0.146 西行車線の右折 : 0.013~0.047 南行車線の直進・左折 : 0.017~0.058 右折 : 0.029~0.078</p>

3.4 環境保全措置

1. 環境保全措置実施箇所の管理

対象事業実施区域内の調整池に創設した湿地環境（両生類の産卵環境）の管理内容を表 3-141 に、実施場所を図 3-21 に、湿地環境の状況を図 3-22 に示す。

表 3-141 環境保全措置実施箇所の管理内容

項目	内容	実施場所	実施時期・頻度
湿地環境の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・創出した湿地環境について、除草、樹木剪定、水量確認・調整等の管理を行い、環境の保全に努める。 ・創出した湿地環境に生息する両生類（アズマヒキガエル等）の産卵状況等の記録を行う。 	調整池内に創出した湿地環境（図 3-21 参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・施設完成年 ・1月・2月・3月・5月・6月・7月・11月・12月に実施
水環境の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・調整池の状況確認（淀み部の水量、水深等）及び必要に応じて漏水対策を行う。また、水路の状況確認（小動物用横断スロープ）や池に流入した土砂の排出・除草等の維持管理を行う。 	対象調整池（図 3-21 参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・施設完成年 ・1月・10月・11月に実施
植物移植地の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・移植した注目すべき植物（ホナガタツナミソウ、エビネ、タチキランソウ、ウスギムヨウラン）の生育状況の調査結果に応じて移植地の整備を行う。なお、整備方法については専門家ヒアリングに基づき実施する。 	対象事業実施区域内で実施した植物の移植地	<ul style="list-style-type: none"> ・施設完成年 ・4月・5月・6月・7月に実施



図 3-21 実施場所



図 3-22 湿地環境の状況（令和 7 年 4 月現在）

(1) 湿地環境の管理

① アズマヒキガエル

1) 実施内容

両生類の産卵環境として整備した湿地環境において、湿地環境を維持するため、水路及び池の土砂撤去、藻の除去、水量確認・調整、外来雑草の除去等の管理、両生類（アズマヒキガエル等）の産卵状況の記録を行った。

2) 実施場所

実施場所は、前掲図 3-21 に示す湿地環境（両生類の産卵環境）とした。

3) 実施日

実施日は、表 3-142 に示すとおり、10 回実施した。

表 3-142 実施日

項目	実施日		実施内容
湿地環境 の管理	令和 6 年	3 月 11 日	・湿地環境の管理（除草、水量確認・調整等） ・両生類の産卵状況等の記録
		5 月 8 日	
		5 月 21 日	
		6 月 24 日	
		7 月 26 日	
		11 月 9 日	
	12 月 13 日		
	令和 7 年	1 月 7 日	
		2 月 16 日	
		3 月 11 日	

4) 実施方法

実施方法は、水路及び池に繁茂する藻を除去するとともに、水位の確認と調整を行い、両生類の産卵や動植物の生息・生育しやすい環境を整えた。水路及び池の周辺においては、外来雑草の除去を行うとともに、漂流物の除去を実施した。

また、両生類の産卵状況等を確認するとともに、タヌキによる捕食やカラスの妨害行動を防止するため、一時的に獣害防止用ネットを設置した。

5) 実施結果

湿地環境の管理状況を表 3-143 及び図 3-23 に示す。

令和 6 年 3 月にアズマヒキガエルの卵塊を確認したが、カラスによって岸边に投げ捨てられる状況が確認されたため、対策として獣害防止用ネットを設置した。5 月にはアズマヒキガエルの幼生を確認するとともに、小堀谷の湿地で飽和状態となっていたアズマヒキガエルの幼生を移植した。また、カラスによる妨害が無くなったためネットを撤去した。

令和 7 年 1 月には両生類の産卵に備えて獣害防止用ネットを設置した。3 月にアズマヒキガエルの交尾行動や卵塊が確認された。

年間を通じてアズマヒキガエルの他、ヤマアカガエル、ニホンアカガエル、モリアオガエル等の産卵も確認されたことから、両生類の産卵環境として整備した湿地環境は良好に維持されている。

表 3-143 湿地環境の管理状況

実施時期		実施内容
令和 6 年	3 月	【3 月 11 日】 アズマヒキガエルの卵塊を 2 個確認した。カラスによって卵塊が岸边に投げ捨てられる状況が確認されたため、獣害防止用ネットを設置した。
	5 月	【5 月 8 日】 アズマヒキガエルの幼生を約 2,000 個体確認した。小堀谷の湿地においてアズマヒキガエルの幼生が飽和状態であったことから約 2,000 個体の幼生を移植した。その他に藻の除去、水路の改修を行った。カラスによる卵塊の投げ捨ての危険が無くなったため、獣害用のネットを撤去した。
		【5 月 21 日】 水の濁りがあったため幼生を確認したところ、ヤマアカガエルの幼生を 2 個体確認した。
	6 月	【6 月 24 日】 モリアオガエルの卵塊を 8 個確認した。
	7 月	【7 月 26 日】 外来雑草が繁茂していたため、水路の改修と外来雑草の除去を行った。
	11 月	【11 月 9 日】 周辺からの土砂の流入が増加し、池の水深が浅くなったことから、応急処置として重機や手掘りにより土砂を撤去した。
	12 月	【12 月 13 日】 外来雑草が繁茂していたため、水路の改修と外来雑草の除去を行った。
令和 7 年	1 月	【1 月 7 日】 カラスの妨害やタヌキによる捕食が確認されたため、両生類の産卵に備えて獣害防止用ネットを設置するとともに、藻の除去を行った。
	2 月	【2 月 16 日】 ニホンアカガエルの卵塊を 6 個確認した。藻の除去を行った。
	3 月	【3 月 11 日】 アズマヒキガエルの成体を約 20 個体確認し、交尾行動や卵塊 7 個を確認した。タヌキによる捕食を防止するため、獣害防止用ネットを強化し、繁殖行動の最盛期には夜間の見回りを行った。また、トノサマガエルの成体を確認した。

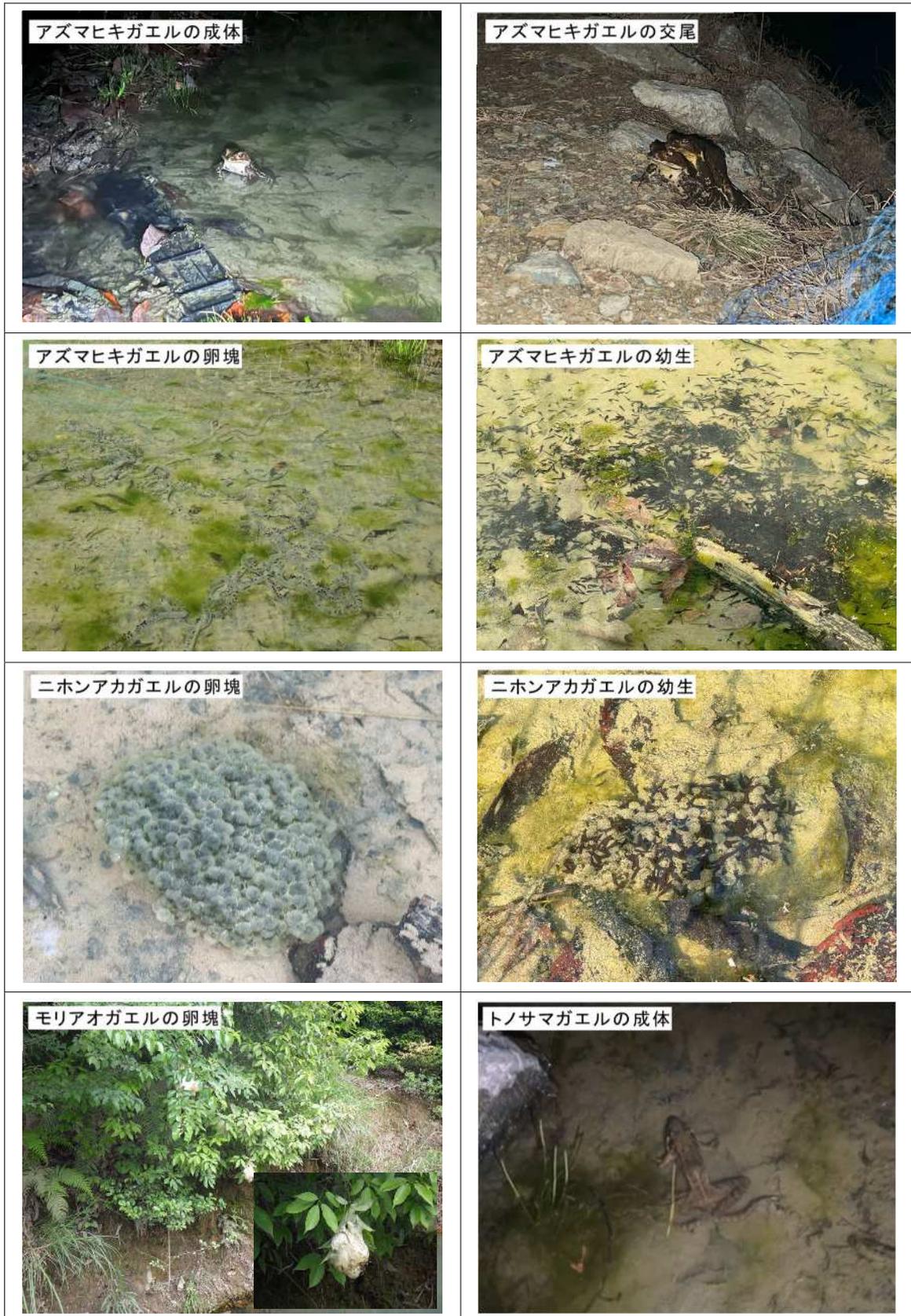


図 3-23(1) 湿地環境の管理状況



図 3-23 (2) 湿地環境の管理状況

(2) 水環境の管理

1) 実施内容

対象調整池の状況確認（淀み部の水量、水深等）及び必要に応じて漏水対策を行った。また、水路の状況確認（小動物用横断スロープ）や池に流入した土砂の排出・除草等の維持管理を行った。

2) 実施場所

実施場所は、前掲図 3-21 に示す対象調整池とした。

3) 実施日

実施日は、表 3-144 に示すとおり、3 回実施した。

表 3-144 実施日

項目	実施日		実施内容
水環境の 管理	令和 6 年	10 月 16 日	・対象調整池の状況確認（淀み部の水量、水深等）、漏水対策、水路の状況確認、池に流入した土砂の排出・除草等の維持管理
		11 月 16 日	
	令和 7 年	1 月 7 日	

4) 実施方法

実施方法は、水路及び池に土砂の流入が見られた際に、スコップ等で土砂を撤去した。また、外来雑草の撤去を実施した。

5) 実施結果

水環境の管理状況を図 3-24 に示す。

淀み部の水量、水深等を確認し、水深が浅い場合は水路を調整することにより適正な水量と水深を確保した。水路や池に流入した土砂を排出したが、大雨時の流入量が多いことから、応急処置として重機を用いて土砂を除去し適正な水量と水深を確保した。

また、漏水等は確認されず、外来雑草の除去により良好な環境が維持されている。



図 3-24 水環境の管理状況

(3) 植物移植地の整備

1) 実施内容

令和5年度に移植した注目すべき植物における移植地の整備を行った。

2) 実施場所

実施場所は、対象事業実施区域内に移植した植物の移植地とした。

3) 実施日

実施日は、表 3-145 に示すとおり 4 回実施した。

表 3-145 実施日

項目	実施日		実施内容
植物移植地の整備	令和6年	4月21日	・移植した注目すべき植物の生育状況に応じた移植地の維持管理
		5月21日	
		6月24日	
		7月4日	

4) 実施方法

移植した植物の生育状況を確認した。なお、移植地の整備を行うにあたっては、専門家のヒアリング内容に基づくものとした。

5) 実施結果

植物移植地の整備状況を図 3-25 に示す。

ホナガタツナミソウ、エビネ、ウスギムヨウランの活着状況は概ね良好であった。

なお、タチキランソウは令和6年度も確認されなかった。



図 3-25 植物移植地の整備状況